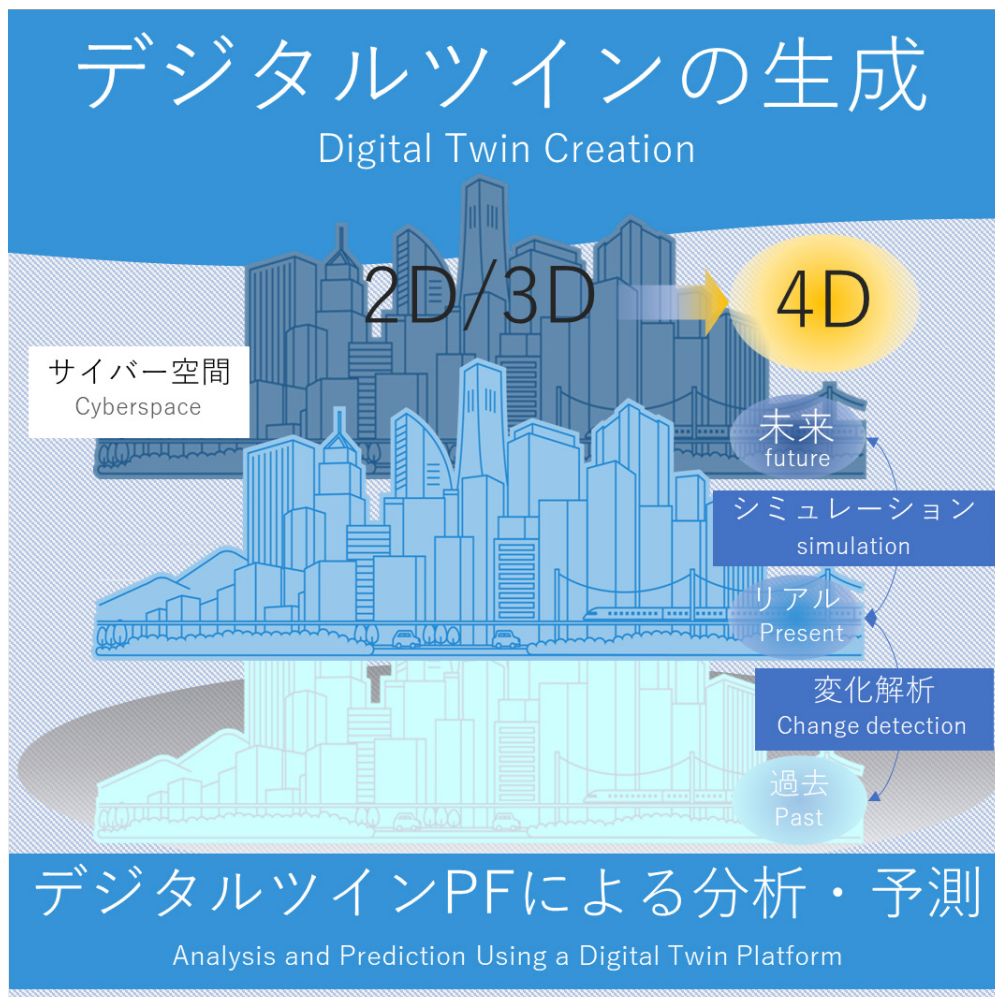


4Dデジタルツイン生成と動的分析・予測

スマートシティ事業者などが、衛星3D地図の利用により、都市・インフラ管理、リスク予測、対処計画最適化を実現します

#顧客体験価値向上 #業務効率化 #レジリエンス



///技術課題

建物などの構造物の新設を行う際、環境影響評価の実施が必要ですが、3Dシミュレーションは高額で時間がかかります。

///研究目標

4Dデジタルツインプラットフォームの構築により、新たなデジタルツイン市場創出をめざします。

---要素技術

- ・ 高精細・高頻度3D地図を活用した統合型デジタルツインプラットフォーム (DTaaS)の開発
- ・ 高精細・高精度な3D作成技術に加え、衛星の製造・運用も含めた垂直統合により、高頻度に都市を更新する4Dデジタルデータを提供

---適用ビジネス

テレコム分野に置ける基地局設計やサービスの品質向上、スマートシティ分野に置けるデジタルツインを活用した都市開発やヒートアイランド対策など、効率化と最適化に適用 (2026年) (市場創出規模 年間1,000億円)

---市中技術差異点

最先端のLow Earth Orbit (LEO) 衛星コンステレーションを用いた世界初のデジタルツインプラットフォームを構築し、これまでにない高頻度・高解像度の地理空間情報を提供